

1	会議名	令和4年度 第1回総合教育会議 会議録
2	開催日時	令和4年7月20日(水) 午前10時00分～午前11時35分
3	開催場所	全員協議会室
4	出席者	市長 福田 良彦 教育長 守山 敏晴 教育長職務代理者 廣田 登志子 教育委員 村尾 利勝、竹田 千恵、渡邊 博明
5	欠席者	なし
6	説明のため出席した者	教育次長 丸川 浩 学校教育課長 林 隆之、主幹 田村 幸恵 青少年課長(教育センター所長) 倉本 敦 文化財保護課長(岩国徴古館長) 若林 久夫 生涯学習課長(中央公民館長) 岸井 清市 中央図書館長 山本 圭子 科学センター館長 弘中 勝 英語教育推進室長 村中 俊一郎、施設班長 櫻田 和宏
7	事務局	教育政策課長 仁田 誠彦 政策班長 大黒屋 誠、政策班 村上 葵 政策企画課長 賀屋 和夫
8	協議事項	令和4年度の主な取組(教育関係施策)について
教育政策課長		・定刻になりましたので、令和4年度第1回岩国市総合教育会議を開催します。なお、本日の会議の終了予定時間は12時としておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。それでは、開催に当たりまして、福田市長に御挨拶をお願いします。
市長		・皆さん、おはようございます。本日は、令和4年度第1回岩国市総合教育会議に御出席いただきありがとうございます。この総合教育会議は、教育委員会制度改革の一環として、全ての地方公共団体に設置することとされているものです。平成27年5月に第1回目の会議を開催し、今回で15回目になります。 本日は、守山教育長をはじめ、4人の教育委員の皆様にも御出席いただきました。令和4年度の教育関係施策の主な取組を中心に、意見交換を行いたいと思います。 時間も十分にございますので、皆様と十分な意思疎通を図りながら、同じ方向性を持って教育行政をしっかりと推進していきたいと考えています。本日もぜひ、率直で忌憚のない御意見をお伺いできればと

<p>教育政策課長</p> <p>村尾委員</p>	<p>思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>また、村尾委員におかれましては再度、教育委員をお引き受けいただきました。今後ともよろしくお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• それでは、再度、教育委員に御就任いただきました村尾委員に御挨拶をお願いします。</li> </ul>
<p>教育政策課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今期で3期目になりました。いろいろと課題がございますが、微力ながら一生懸命に努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。</li> </ul>
<p>教育政策課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• それでは、議事の進行につきましては、岩国市総合教育会議運営要綱第4条第3項により、市長にお願いいたします。市長、よろしくお願いいたします。</li> </ul>
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• それでは、お手元に配布しております次第に沿って、協議を進めていきたいと思っておりますので、御協力をお願いします。</li> <li>• 「令和4年度 主な取組（教育関係施策）」について、協議しますので、説明をお願いします。</li> </ul>
<p>教育政策課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• それでは、資料に沿って御説明をさせていただきます。令和4年度 主な取組（教育関係施策）の資料を御覧ください。教育政策課は継続事業が8事業、新規事業が2事業です。</li> <li>• まず、トイレ簡易改修事業です。予算額は1,000万円です。小・中学校のトイレを簡易的な工事方法により、和便器から洋便器に20基程度の改修をするものです。令和4年度は小学校5校、中学校2校で実施します。</li> <li>• 次の小学校施設トイレ改修事業ですが、学校施設の衛生環境改善のため、国庫補助を活用し、トイレの改修工事を実施するものです。予算額は1,457万3,000円です。工事内容は、温水洗浄便座を有した洋便器化に加え、床、壁、トイレブース、換気設備等、老朽化し更新が必要な箇所について改修を行います。令和4年度は、愛宕小学校及び灘小学校について、実施設計を行います。</li> <li>• 次に、小学校空調設備整備事業です。予算額は520万円です。学校施設の衛生環境改善のため、こちらも国庫補助を活用し、特別教室に空調設備を整備します。令和4年度は、高森小学校の実施設計を行います。</li> <li>• 次に、灘小学校屋内運動場改築事業です。予算額は1,614万6,000円です。岩国市学校施設長寿命化計画に基づき、灘小学校屋内運動場の改築を行います。令和4年度は、令和3年度から実施しております実施設計の2年目となります。</li> <li>• 次の中学校施設トイレ改修事業は小学校と同様の事業です。予算額は1,456万1,000円です。令和4年度は、川下中学校及び通津中学校の実施設計を行います。</li> </ul>

- ・次に中学校空調設備整備事業です。予算額は1,050万円です。小学校と同様の事業になります。令和4年度は、岩国中学校及び灘中学校の実施設計を行います。
- ・次のページを御覧ください。英語交流センター運営事業です。予算額は4,273万1,000円です。令和4年3月にJR岩国駅東口駅前で運用を開始しました岩国市英語交流センター「PLATABC」において、英語の学びや学び直しの機会の充実を図り、国際交流活動を促進するため、各種イベントや講座を開催し、外国人と市民が自然にコミュニケーションが図れる環境を提供します。令和4年度はセンターの運営委託費、施設維持管理費等を計上しております。
- ・次は、英語教育推進事業です。予算額は4,884万円です。小学校における国際理解教育及び英語教育の推進を図るため、英語を母語とする外国語指導助手、いわゆるALTを配置しております。令和2年度から小学5・6年生は英語が教科になっており、ALTを小学校間で配置展開することにより、パフォーマンステストなどの評価のサポートを効果的に行うなど、より質の高い授業支援を行います。小学校31校を10グループに分け、10人のALTで指導を行います。
- ・次に、国際交流支援員常駐配置事業です。予算額は6,811万9,000円です。これは財源として再編関連特別地域整備事業の基金を活用いたしまして、中学校における国際理解教育及び英語教育の推進を図るため、英語を母語とする国際交流支援員を全14中学校に対し常駐配置いたします。本事業は、生徒への語学指導だけではなく、地域への語学指導、国際交流教室等を開催することによりまして、グローバル化により、増加する外国人とコミュニケーションを円滑に行う環境を整備し、生徒を含む市民への英語力向上を図り、安心して生活できるまちを目指してまいります。国際交流支援員14人を配置いたします。
- ・最後になりますが、英語交流のまちIwakuni推進事業です。予算額は178万8,000円です。日本語や日本文化を大切にしながら、基地を地域資源として捉え積極的に活用し、学校における英語教育の充実や国際交流事業を推進することにより、グローバルな人材の育成を行うことが必要です。本市の特性を活かしながら、英語の学び・学び直しや国際交流が充実した「英語交流のまち」を実現するため、「英語交流のまちIwakuni創生プロジェクト」を推進します。検討会の開催や市主催の関連イベントなどを開催するとともに、市民全体の英語力向上へ向けた取組を推進してまいります。教育政策課からの説明は以上です。
- ・学校教育課です。まず、小中学校日本語指導支援員配置事業です。日本語が話せない、日常会話程度しかできない外国人子女に対して、学校への適応を図ることを目的としています。日本語指導支援員は、授

学校教育課主幹

業中に当該児童のそばに寄り添って日本語のサポートをしたり、昼休みなどを利用して、個別に日本語の基礎や基本を教えたりする活動をしております。本年度は、3校に5人の支援員を配置しております。財源は、山口県の再編関連特別地域整備事業の基金を活用しています。

- ・次に英語民間試験活用事業です。これは財源としてふるさと応援寄付金を活用しております。英語民間試験を導入することにより、その測定結果をもって授業の工夫・改善を行い、教職員の指導力の向上や、児童生徒の英語力の定着及び向上を目指しております。市立小学校6年生及び中学校3年生全員に受検していただいております。昨年度、小学校においては全国平均を上回っており、中学校においては中学校卒業時に身に付けておきたい英語力レベルである「CEFR-J A1.2」が68.8パーセントとなっており、引き続き推進してまいります。
- ・次に、3ページの小学校英語力向上事業です。令和2年度から小学校において教科化された英語教育を推進するため、小学校5・6年生を対象に授業で学んだ英語力を定着させるとともに、教職員には「話す」技能の評価のサポートを行うソフトウェアを導入します。
- ・次に、小中学校学校給食運営事業です。平成30年度から学校給食運営基金を活用し、市立小中学校の学校給食費の無償化を実施しております。
- ・次に、確かな学力推進事業です。今年度は、麻里布中学校区と岩国中学校区を研究校に指定し、様々な事業を実施しています。本事業を通して、小・中学校の教職員や関係者が一堂に会し、研修することは大いに意義があり、目的の共有や相互理解が進むことで子供たちの学力向上につながると期待されます。
- ・次に、小中一貫教育推進事業です。今年度は、小中一貫教育担当者協議会を開催し、山口大学より指導者を招へいして研修会を行いました。また、中学校区で合同研修会を開催し、小中一貫教育の目的や取組を学校関係者だけでなく、保護者や地域住民と共有することを目指しております。
- ・次に、岩国北部地域給食施設整備事業です。岩国北部地域にある小・中学校の給食調理場につきましては、いずれも老朽化していることから、比較的新しい美和西小学校調理場を、調理能力500食程度の共同調理場に改修し、北部地域の各学校に対し給食を配送するもので、将来にわたり安心・安全な学校給食を安定的に提供するため行うものです。
- ・次に、小中学校ICT環境整備事業です。2学期から、小学生1・2年生にも一人に1台の端末を配付し、効率的かつ積極的に活用して、学校や家庭においても主体的に学習が行えるよう、準備を進めている

<p>青少年課長・教育センター長兼務</p>	<p>ところです。学校教育課からの説明は以上です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 続きまして、教育センター・青少年課です。自立学習応援プログラム導入事業について御説明いたします。令和元年度より実施していますが、学校に行けなかった時期の学習内容を学び直すことを目的として、教育支援教室に通室してくる不登校児童生徒を対象にeラーニング教材「すらら」を活用して学びの充実を図っております。現在、中央教室に14人、西教室に7人、南教室に3人、計24人が在籍しており、アウトリーチによる家庭訪問支援生徒4人を含めて18人の児童生徒がeラーニング教材を活用した学習に取り組んでおります。本事業は予算額165万4,000円を計上しております。以上です。</li> </ul>
<p>生涯学習課長・中央公民館長兼務</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 続きまして生涯学習課です。「とどける」家庭教育支援事業ですが、継続事業で主に報償費として298万1,000円を計上しております。この事業は現在4年目ですが、小学校31校中22校、支援員55人まで拡大いたしました。課題を抱える家庭や孤立しがちな家庭を対象に、支援員が学校と協働して子育てや家庭の課題に関する相談対応や情報提供等を通じて、家庭の自立と課題解決につながる専門機関への橋渡しを行います。事業の実施に当たりましては、支援員の資質向上を図るための研修会開催や、支援員同士の意見交換の場を年に2回設け、支援員に対してのケアを行っております。さらに、教育関係各課だけでなく健康福祉部局等の関係機関と連携——具体的には年2回の連絡会議を行うことで、切れ目のない子育て支援、家庭教育支援体制の構築を図っております。</li> <li>・ 続きまして、山口県立大学サテライトカレッジでございます。従来実施している講座・講演会などに対して、より多様な内容を提供できるように山口県立大学と連携し、講師を派遣していただき講座を実施いたします。今年度は歴史文学「平家物語」などを内容にする講座を、市民文化会館小ホールを会場に予定しております。</li> <li>・ 続きまして、玖珂こどもの館ピット排水設備設置調査設計です。当施設のホールですが、御承知のとおり半地下となっております。そのため、平成30年に75センチメートルの浸水、その後も3回の浸水事故が起きております。浸水する場所は特定できておらず、また小型の排水ポンプしかない状況のため、浸水の状況を確認しながら手動で排水している状況です。そのため今年度予算にて新規の排水設備設置のための調査・設計、来年度に設置工事を予定しております。</li> <li>・ 続きまして、中央公民館整備事業です。現在、前年度より繰り越した基本設計を行っております。同時に、機能移転に伴う引っ越し業務も行っております。基本設計につきましては8月に完了を予定しており、引き続き実施設計を行う予定です。生涯学習課・中央公民館からは以上です。</li> </ul>

<p>文化財保護課 長・岩国徴古館 長兼務</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財保護課及び岩国徴古館の事業について、御説明いたします。まず文化財保護課ですが、継続事業といたしまして、旧目加田家住宅の整備事業がございます。この事業は、国の重要文化財である「旧目加田家住宅」につきまして、計画的に保全修理を実施するとともに、文化財の価値を損なうことなく適切な公開を行うなど積極的な活用を進めていくため、令和3年度から令和4年度にかけて、文化財保護法に基づく保存活用計画を策定するものです。財源としましては、文化庁から2分の1の補助を受け、文化庁148万6,000円、市一般財源148万7,000円、合計297万3,000円となります。</li> <li>・続きまして、岩国徴古館です。1点目は、継続事業である岩国市博物館整備事業です。この事業は、令和元年度から2年度にかけて策定いたしました「岩国市博物館等施設再整備計画」及び令和3年度に策定の「岩国市博物館基本計画」に基づき、本年度は岩国市博物館整備基本設計を実施するものです。基本設計の概要としましては、新博物館の配置、規模構造、展示、設備に加え、運営や活用方法等となります。実施に当たっては、既存の岩国徴古館、岩国学校教育資料館、由宇歴史民俗資料館、本郷歴史民俗資料館、美和歴史民俗資料館や、各教育支所所管の資料の活用等も考慮した検討を行います。</li> <li>・2点目は、新規事業である怪談話を活用したプロモーション事業です。これは、怪談話を市の新しいコンテンツの一つとして活用する下地作りとして、昭和51年に徴古館で発刊し、現在絶版となっております「岩邑怪談録」の翻刻、現代語訳を行ったものを資料集として製作・販売するものです。</li> <li>・3点目は、同じく新規事業で、岩国学校教育資料館トイレ改修事業です。これは、老朽化した岩国学校教育資料館のトイレを簡易水洗に改修し、利用者の利便性向上に寄与するものです。本事業は、既に工事を終え、利用できる状況となっております。以上です。</li> </ul>
<p>中央図書館長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央図書館から御説明いたします。1点目の岩国図書館臨時窓口設置事業についてですが、これは中央公民館建替えに伴い、令和7年度末までを予定として、岩国図書館の臨時窓口を同地域内の岩国西郵便局1階に設置するものです。831万7,000円を予算計上しており、内訳の主なものは、窓口カウンターや複合機などの移設業務委託料に50万円、郵便局借上げ料に96万2,000円、パーテーション設置や電源整備などの工事請負費に657万8,000円です。臨時窓口では、予約本の貸出し返却のほか、新聞・雑誌の閲覧スペースを設け、7月19日から業務を開始しております。また、臨時窓口の開館日は郵便局の営業日同様で、月曜日から金曜日の9時30分から17時までとなっております。なお、西郵便局正面入り口には、時間外や休日にも利用できる返却ポストを設置しています。</li> </ul>

<p>科学センター館長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次に岩国図書館図書資料移転保管事業についてですが、これは岩国図書館にある蔵書を可能な限り中央図書館や分館に移設し、残った資料約8万点を約2,500箱の段ボールに梱包し、休校中の美川小学校の教室に移設・保管するものです。予算額570万8,000円の内訳の主なものは、保管する資料を新館に配架するに当たり、配架計画を作成した後に移設する必要があることから、配架計画作成及び資料梱包業務委託料として366万3,000円、梱包した資料を小学校へ運搬する図書資料運搬業務委託料として123万9,000円としております。図書館からは以上です。</li> <li>・資料にはございませんが、科学センターの移転について、概略を御説明いたします。科学センターは、旧岩国医療センター跡地に令和8年4月を供用開始予定として整備される「黒磯地区いこいと学びのテラス」への移転が決まっており、現在、建設予定地では土地造成工事が行われているところです。この事業は、福祉・科学学習施設を核とした、ふれあい交流施設や自然交流施設などを備えた総合的なまちづくりを目指して計画された事業で、今年度は設計の最終段階となる実施設計が進められております。建設後は健康福祉部社会課が所管することとなる「複合施設内」に整備する科学センターにおきましても、建築設計は詰めの段階に差し掛かっており、来年度後半には、複合施設の建築工事に着手する見通しとなっております。</li> <li>・これまで科学センターにおいては、事業が採択されたことを受け、令和元年度に学識経験者や小・中学校の教職員など12人で構成する「岩国市科学センター整備検討委員会」を立ち上げ、過去7回にわたり協議・検討を行い、移転後の科学センターにおける「5つの基本方針」や軸となる「4つの事業」を定めております。昨年度は、残念ながら感染症の影響から委員会を開催できませんでした。6月29日に今年度第1回となる「整備検討委員会」を開催し、展示施設に関して現時点で最新の科学技術を紹介する展示とすることや、常設展示に頼りすぎない展示手法などについて、協議・検討を行っていただいたところです。</li> <li>・また、移転後の科学センターにおける基本方針の1点目には、「学校教員と共に創り出す、科学好き少年・少女を育み支える学びの場」と掲げており、学校教員と科学センター学術系専門職員が相互に協力しながら、新設される「黒磯地区いこいと学びの交流テラス」内の科学センター施設において理科・環境教育プログラムを提供するなど、学校の理科教室では体験できない講座の開催やサイエンスショー、学術系専門職員が学校へ出向いて行う出前授業などを実施してまいりたいと考えております。こうした事業を展開するため、整備検討委員会では、現在ミクロ生物館で学術系専門職員の役割を担う正職員1人に</li> </ul>
-----------------	--

<p>市長</p>	<p>加え、情報科学分野担当の専門職員 1 人、科学分野を担当する専門職員 1 人、計 3 人の学術系専門職員の配置が必須であると結論付けております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 供用開始までに 3 年 8 か月余りとなった現在、令和 8 年度のオープンに向けて、学校連携に対する具体的な議論を加速させるとともに、収蔵品の管理や新科学センターの展示制作業務、小・中学校へ提供する学習プログラムの開発などを担う専門職員を適切な時期に配置する運営体制の構築など、開館への準備に、関係部局と連絡を密にしながら、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。以上です。</li> <li>・ ただいまの説明に、御質問・御意見がありましたらお願いします。順番にいきたいと思います。まず初めに教育政策課所管の部分で何かございましたらお願いします。</li> </ul>
<p>村尾委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語交流センターの運営事業についてお尋ねします。4 月にお伺いしてすばらしい施設だと思いました。スタートから充実したものが期待できると思います。各種イベントや講座を現在展開しているところだと思いますが、子供たちが行きやすい環境づくりができていくかどうかを含めて現在の活用状況について説明してください。</li> </ul>
<p>英語教育推進室長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用状況についてお答えいたします。現在の入館者数ですが、令和 4 年度は 6 月末現在で 6,471 人となっております。1 日の来場者数に換算するとだいたい 6 月では 81.6 人、5 月では 72.2 人です。次にイベントの実施状況ですが、6 月末現在で 39 件のイベントを実施いたしました。このイベントには 756 人の方が参加されています。子供たちが来やすい環境という御質問ですが、できるだけ小さいお子さん、小・中学生にも楽しんでいただけるようなイベントを学校の時間外である土日を中心に実施しています。具体的には「英語で Web 制作をしてみよう」「ボードゲームで英会話」「イングリッシュキャンプ」といった、児童生徒やもっと年齢の低いお子さんも来やすいようなイベントを組み込んで、そういう方々が利用しやすい環境づくりに努めております。</li> </ul>
<p>村尾委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者数が約 6,500 人で一日当たり約 80 人というのはすばらしい企画運営で、努力されていると思います。近くの東中学校に行って聞いてみましたが、月に 1 回ほど花を生けて提供し、お返しにセンターから手紙をいただいたりしており、今からそういったことを機会に英語の交流を深めていきたいと言われてました。PR については先生方も疎く、交流センターも夏休みに向けてパンフレットを配るというアピールをされるらしいですが、各学校にももっとこういうすばらしい施設があることを広めていただきたいと思います。学校教育課も含めてよろしく願いいたします。</li> </ul>
<p>廣田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際交流支援員常駐配置事業に 6,800 万円という大変大きな予算が付</li> </ul>

	<p>いており、学校関係も市民も大変期待しています。市内の 14 中学校において国際交流支援員の常駐配置ということで、昨年度伺ったときに、玖北地区においては地域が和気あいあいとしたところなので、支援員の方が中心となって俳句に親しんだり絵を描いたり、いろんな文化の交流をしている様子を見させていただきました。生徒はもとより地域の方との交流がとても密に行われているという話を伺っています。大規模校においてそのような特殊な活用例があれば紹介してください。こんな事業がどんどん広がって深まっていくことを期待しています。</p>
英語教育推進室長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流支援員常駐配置事業における地域活動への取組について、昨年度の実績ですが、地域住民へ向けた英会話教室など 130 の事業に参加していただいております。私も由宇中学校へ行って国際交流支援員の地域活動について見学させていただきました。特別な取組かは分かりませんが、国際交流支援員の方が学校の空き教室を活用して地域の方向けの英語教室をされておりました。そこには高齢の方もいらっしゃいましたし、高校生の方もいらっしゃいました。こういった国際交流支援員が地域活動に参加していくということも徐々に根付いていくのではないかと感じています。</li> </ul>
廣田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に支援員が配置されておりますので、昼休みでもネイティブな英語に身近に接することができるというのが他市にはない岩国市の特徴だと思います。予算をとっていただいておりますので、ぜひネイティブな感覚にどっぷり浸かるような活用をお願いしたいと思います。それから運営企画について、教育の内容は学校教育課がしっかりつかんでいるので、一緒に協力して有効な活用をしてください。よろしくお願いたします。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流支援員事業は渡邊委員の川下地区で以前から取り組んでおられますけれども何かございますか。</li> </ul>
渡邊委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川下中学校でやっていましたが、国際交流支援員の先生が任期満了で辞められてしまい、そのままコロナ禍で後任が決まっていない状況であります。参加した住人の方々はまた交流の場ができるのを切に願っています。</li> </ul>
市長 英語教育推進室長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人の任期が何年というのはありますか。会社に依頼するのですか。</li> <li>・派遣を依頼しておりますので、個別の支援員の任期は定めておりませんが、支援員や会社の都合などでやむを得ず配置換えになることはあります。問題なければできるだけ長くお願いをしています。</li> </ul>
渡邊委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人が変わっても英会話教室が毎年継続して実施できるようにしていただければ、地域住民も増えていくと思うのでお願いします。</li> </ul>
英語教育推進室長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかり地域支援ができるように支援員の配置の期間について考えていきたいと思っています。</li> </ul>

<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P L A T A B CはDMMに運営していただいて、3か月ほどの利用状況は良いと思います。一般の方にも学び直しで来ていただいて良いということになってはいますが、児童生徒以外の一般の方はよく来ますか。国際交流の拠点なので、外国人の方にも来ていただいて交流を図ることも目的としておりますが、割合的にはまだ児童生徒が中心なのですか。</li> </ul>
<p>英語教育推進室長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先ほど入館者数が 6,471 人と申し上げましたが、これにつきましてはイベントではなくて、純粹にセンターに入館された方を集計した数です。外国人と日本人を分けての集計はしていませんので具体的な数字はこの場で申し上げられません。私が現場で見た雰囲気でお答えすると、開館から徐々に基地の方と思われる外国人のお客様は増えつつあると思います。先日は基地内のペリースクールの子供が 14 人遊びに来られたほか、アメリカ人のお母さんが 3、4 歳くらいのお子様を連れて定期的に来られる様子も最近は見受けられます。私たちはこの施設が市民にとって魅力的な施設になるためには、外国の皆様にも沢山来ていただいて初めて魅力的な施設になると思っています。そのためには外国の方にとっても魅力的なイベントを展開していかなければならないと思っています。</li> </ul>
<p>市長 村尾委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校教育課所管の部分で何か御意見があればお願いします。</li> <li>・ 確かな学力推進事業ですが、これは伊藤進教育振興基金ではないかと思えます。子供たちの学力向上のために使っていただきたいということで、寄附をいただいた当初は財政的に厳しく、マイナスシーリングだったものですから、宿題の用紙代などに充てて各学校に配っていました。それが福田市長に代わってから潤沢な予算が配られるようになって、基金がより望ましい方向に行き、研究指定校に対して先生方に研究が充実できるような仕組みでこういう資金が適正に使われているということで、麻里布中学校などの指定校に対しての講師料であったりするわけですが、もっと指定校を増やすわけにはいかないですか。当初は 2 校あって、小・中合わせて研究して、それを各学校に還元するという形を取っていましたが、縮小しましたか。</li> </ul>
<p>学校教育課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 確かな学力推進事業につきましては、今年度 2 年目を迎えるのは麻里布中学校区の麻里布小学校と麻里布中学校。そして今年度一年目を迎えますのが岩国中学校区の岩国中学校とそれにつながる 4 小学校ということで、学校数としては 7 校が指定を受けていることとなります。ほかの学校の指定もどうかということですが、県の指定も結構多くございまして、やはり全ての学校に指定を受けていただくというのは難しいですので、今はこの 2 中学校区に絞ってやっています。</li> </ul>
<p>村尾委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分かりました。</li> </ul>

市長	・ 7校ですか。
学校教育課長	・ 2中学校区の7校になります。
村尾委員	・ 数としては一つの学区で指定するということで、増えているということですか。
学校教育課長	・ 学校の数としては増えています。
市長	・ 基金は今どれくらいありますか。
学校教育課主幹	・ 3月末時点の基金の残高が5,267万円です。
市長	・ 当初は1億円でしたよね。
学校教育課長	・ そうです。
市長	・ 初めての方がいらっしゃるかもしれませんが、楡山事務器会長の伊藤進さんから個人的に市に1億円の寄附がありました。戦時中に教育を受けられなかったので、市の教育委員会に寄附したいという思いがあったそうです。当初はコピー用紙代に使われていましたが、このようないろんな研修にも使うことになりましたので、まだ5,000万円ほどありますからしっかり有効に活用してください。
	・ G T E Cについてお聞きします。これも何年目かになると思いますが、成果が上がっているとの説明だったと思います。以前もここで話したかと思いますが、G T E Cの試験のタイミングについてももう少し早い段階でできないのかとか、結果が出た後に課題がありましたよね。
廣田委員	・ 結果が早く出ないと活用ができないという話でした。
市長	・ 結果を早く出して4技能のどれに強いかわかることによって生徒一人一人に指導ができるけれど、評価が出てくるのが遅いので後の指導につなげられないという課題がありました。タイミングがもう少し早くなりませんか。
学校教育課長	・ 市全体の結果については前年度のものを次年度に、小学校6年生はこういう成果と課題・中学校3年生はこのような成果と課題、ということで御提供いただいて、それを各学校の外国語担当と共有しながらやっておりますが、評価をすぐに活かす点についてはこちらでももう一度検討してまいりたいと思います。
市長	・ 学年というより生徒一人一人、個人の4技能の結果がしっかり出ることが最初のポイントでした。この子はこれに強いけどこれはもう少し頑張ろう、というのがありました。全体ではなく個人に。
学校教育課長	・ 分かりました。その辺りもしっかり個人に結果がすぐに返るように進めてまいりたいと思います。
市長	・ 今日の新聞で光市が小中一貫校をすると出ていました。岩国市はこれまで一体型や分離型で小中一貫の取組を行っていますが、山口県内は全てそのような方向に進むのでしょうか。
学校教育課長	・ 宇部なども進めておられると思います。
市長	・ 岩国市の教育委員会が率先して取り組んでおられるということになり

<p>学校教育課長 教育長</p>	<p>ますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。先進的だと思います。</li> </ul>
<p>廣田委員 教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろんなところで岩国市の取組を発表したり視察を受け入れています。コミュニティ・スクールや地域協育ネットで地域とつながっておりますので、そこに小・中学校もつながりながら対応することが大切であるということは、広まってきているのだと思います。</li> </ul>
<p>廣田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設一体型は岩国市だけですよね。</li> </ul>
<p>渡邊委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校ならありますが。</li> </ul>
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模校は岩国市が率先して行ってください。</li> </ul>
<p>学校教育課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動改革について気になったのですが、令和5年度からですよね。令和4年度は予算をまだ組んでないのかもしれませんが、現状での進行状況と課題があれば教えてください。</li> </ul>
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動については今から大きな流れだと思います。国もどんどんやれということですが、実際は人の確保が一番の問題だと思います。今、うちがやっている外部指導員は予算をつけてやっていると思います。その状況を含めて説明をお願いします。</li> </ul>
<p>学校教育課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動改革については先日、国と県からの方針が示されたところで、これから市でも検討をしっかりとっていくということで、委員会等を立ち上げて行っていきたいと思っています。今市長がおっしゃったようにいろいろな課題がありまして、指導者や活動施設の確保、母体となる大会運営組織や活動費用、保険、関係諸制度の見直し等課題がございますので、今現在、予算計上はしていません。</li> </ul>
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部指導員についてはどうですか。</li> </ul>
<p>学校教育課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部指導員については、14中学校区に配置できるように整備はしておりますが、全ての中学校がそれを活用できているわけではございません。現在8中学校で実施をしているかと思います。</li> </ul>
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8中学校でも全ての部活動ではないですよね。</li> </ul>
<p>学校教育課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての部活動ではないです。</li> </ul>
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの中学校の中でも一定の部活動だけですよ。</li> </ul>
<p>学校教育課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの種目が多いとかはなく、指導者が適切におられるかどうかという部分のマッチングだと思います。学校によってお願いしている指導者は違います。</li> </ul>
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マッチングということは、学校が探してくるということですか。</li> </ul>
<p>学校教育課長 教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。</li> <li>・この競技のコーチが欲しいということがあれば、協会との兼ね合いで良い方がいらっしゃればお願いをしますが、なかなかいらっしゃらないです。人事によっても変わってきます。これまでいらっしゃった専門の先生が人事異動で変わられた場合に、この競技に今は力を入れているので指導員が欲しいということがあります。今は学校毎に部活動</li> </ul>

<p>村尾委員</p>	<p>の数が多いですから。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化部で言えば吹奏楽は指導者がなかなかいらっしゃらないです。それで元校長先生だった方が部活動指導員として指導されたりしています。バスケットボールなどは専門的な技術が必要ですから、そういった方は多いと思います。</li> </ul>
<p>渡邊委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材に限られるので、限られた指導者の取り合いのようになり差別化されてしまう。支援員が別の中学校にいったのでうちの中学校には支援員がいないという状況がどうしても出てしまうと思います。</li> </ul>
<p>学校教育課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援員がという形ではなく、地域の受け入れられる団体があるかどうかだと思います。麻里布中学校区のことであっても、受入れの団体が由宇にあれば、そちらに出向いていただくようなことが土日についてはあるかだと思います。</li> </ul>
<p>市長 学校教育課長 市長 学校教育課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土日なんですよ。</li> <li>・はい。今のところは土日での話です。</li> <li>・平日と土日の部活でどう分けたら良いかという問題もありますね。</li> <li>・はい、難しいです。</li> </ul>
<p>廣田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そこで例えば、吹奏楽の話が出ましたが、平日はその学校を担当する音楽の先生や吹奏楽の指導員が指導をしますが、土日は別の人が指導するということになるので、一つの音楽を別の人が指導することになるので、その辺が不安です。また大会になると吹奏楽は全国大会、中国大会、県大会、市の大会とずっとつながっていますが、その辺も上から降りてこないと下が何とも言えない状態です。大会はどうなってきますか。</li> </ul>
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでは学校対抗でしたが、それをだんだん地域も入れてオープンにしていきます。中体連は来年度から部活という枠を外して合同チームでも良いですよという形にしていくそうです。</li> </ul>
<p>廣田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育会系の部活はだんだん進んで、吹奏楽のコンクールなどは組織作りがまだできていませんね。</li> </ul>
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員でも、熱心に指導したい方は兼職ができるような制度もありますから。その辺をこれから様々なアンケートを行い、文化協会や体育協会の方々とも連携をとりながらやっていきます。先日も文化協会の方と話す中で、いろんなサークルがあるので中学生と連携がとれたらいいねと言っておられる方もいらっしゃいますし、そういったことをオープンにしながら協議していきたいです。</li> </ul>
<p>村尾委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番大きな根っこは、子供は部活の時は管理下にあるので、事故が起こった時に日本体育センターの保険が適用され、学校の事故と同じ扱いになります。それが地域移行すると、交通事故や練習中の事故などがあった場合の保険適用はどうなるかというのが大きな問題になっ</li> </ul>

	<p>てくると思います。事故は起こるものですから。その時の保険適用は          どうなるかということ以前、前学校教育課長が体育協会に来られた          時に聞いたら分からないとのことだったので、受け入れる側は保険を          しっかりしなければ指導ができません。そういった問題もあるので、          部活と管理下の問題で大きなネックになっているのではないかと          思います。</p>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういった課題は抽出しておいて、どうするかということをもた下          からも国と県と協議しなければならないので。</li> </ul>
教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの地域も同じ課題があるので、共有しながら対応していきたいと思          います。</li> </ul>
竹田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生のお子さんがある保護者の方が、中学生になったら部活がなく          なるかと勘違いされています。なので今から地域のスポーツで習わせた          方が良いのではないかと言われます。</li> </ul>
教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい内容をお知らせしなければならないですね。子供たちが不安に          なるというのは一番良くないことですから。</li> </ul>
竹田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今からお金を払って何かを習った方が良いのかとか。中学校に入っ          たら部活に入るのが当たり前とっていますので、その辺をはっきりと          させてください。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央公民館は今から解体などがありますけど、利用団体はそれぞれ手          分けしていろんな拠点に移りましたよね。</li> </ul>
生涯学習課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度の途中からというのは難しかったので、年度当初から中央公民館          の各分館、後は愛宕のスポーツコンプレックスに変更していただい          ております。分館によってはかなり過密な状況でやりくりしていただ          いているような、苦しい状況ではございます。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玖珂のこどもの館の強制排水設備について、水漏れするのは聞いてい          ましたが。屋根から水が漏れるのは知ってましたが、浸水にまでなっ          ていましたか。ステージが地下に降りていますよね。あのホールが浸          かるということですか。</li> </ul>
生涯学習課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。先ほど申しあげましたように、平成30年にホールの床上75セ          ンチメートルまで、舞台と客席が浸かりました。令和2年と令和3年          にも浸かっておりますが、こちらはホールの中のピット——排水を受          ける水槽のような部分に浸水をしておりまして、そちらの方は被害は          出ていないといった状況です。ただ担当課に確認をしたところ、浸水          の経路がよく分からないということで、まずそこから今年調査を行う          予定です。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1階ホールの屋根が雨漏りするのは知っていましたが、ステージまで          浸水するのは知りませんでした。強制排水設備になるとかなり大掛          かりなものになるのではないですか。</li> </ul>
生涯学習課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今は小型のポンプが2つあるのですが、上手く作動しなかったり、動</li> </ul>

<p>市長 教育長 生涯学習課長</p>	<p>かしてモーターが焼き切れない保障がないということで、交代で動かすとか、状況を見ながら動かしている状況ですので、夜間も職員が対応しておと思いますが、今の状況ではまたいつ被害があるか分からないということで、原因への対応ということで今年度設計の方で考えさせていただければと思っております。浸かった時の写真はあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後で見ます。</li> <li>・大雨で当分使用禁止になりました。</li> <li>・平成 30 年 7 月に周東などでかなり大きな被害が出た豪雨がありましたが、その時のものです。</li> </ul>
<p>市長 生涯学習課長 竹田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西日本豪雨ですよね。</li> <li>・はい。</li> <li>・中央図書館の図書資料移転保管事業で、570 万円ほどするというところで、委託料に結構かかるなど思ったのですが、これは継続をするということではないのですか。7 年度まで続くとか。</li> </ul>
<p>中央図書館長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、図書資料というのはただ段ボールに詰めて保管して新館ができて運べば良いというものではありません。分類して分けて保管しておりますので、箱に詰める時もこの箱にはどういう分類の本が入っているか分かるようにして、新館へ運ぶときもどこに置いたら良いかという緻密な計画を立ててから運びますので、高度な技術を持っているところに委託することになります。計画作成と運搬はまた別になります。</li> </ul>
<p>市長 中央図書館長 渡邊委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美川小学校でしたよね。</li> <li>・はい。3 月に休校しました。</li> <li>・美川小学校ということですが、以前に浸水したことがありますよね。万が一というのは想定した上で美川小学校の校舎へ移設するということですか。</li> </ul>
<p>中央図書館長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。当初は小学校ではなく、昨年度で休校 5 年目を迎えた美川中学校の方に移動させる話になったのですが、教育支所からの提案で 3 月まで使っていた小学校の方が良いのではないかということで、小学校に決めさせていただきました。雨漏りも少しあるようなのですが、2 階の教室が安定していて雨漏りがなかったので、2 階の 3 教室に保管することになりました。浸水や雨漏りは今のところ見受けられませんが、もしものことがありましたら対応いたします。</li> </ul>
<p>市長 村尾委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 17 年に 1 階が全部浸かったと思います。図書資料は 2 階にということですよ。</li> <li>・グラウンドに川の水が入らないくらいの高さに護岸のかさ上げをしました。</li> </ul>
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かに 17 年の時には大変な水害がありましたけど、その後、護岸の</li> </ul>

<p>中央図書館長 村尾委員</p>	<p>かき上げと、平瀬ダムが完成して 10 月くらいから水を溜め始めるという試験的な運用を始めるということで、今後は治水的なものは改善されていくとは思いますが、あの辺は過去に浸かった経験があるからなるべく用心のために 2 階にということですよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に風通し等に行きますので、注意してまいりたいと思います。</li> <li>・令和 8 年に新しい科学センターができるに当たって、施設等についての整備検討委員会がこの 6 月にあったということで、最新の科学技術を用いたものを入れるなどと説明がありましたが、周辺整備で、学校が欲しがると思うので、ぜひどんぐりの木であるクヌギをたくさん植えていただきたいと思います。低学年の図工や生活科の授業で、ドングリを活用するものがかかり出てきます。なかなか学校側もクヌギの木がないので、先生方が四苦八苦して山へ集めに行きます。新しい科学センターにクヌギの森があれば、一緒にコラボしようというものもできるのではないかと思います。ですから、ビオトープも含めた周辺整備を考えていただきたいなど。整備検討委員会の中で話されるかどうかは分かりませんが、自然科学に親しむということで、ぜひお考えをお願いします。</li> </ul>
<p>科学センター館長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今言われましたクヌギなどの植物に関しまして、移転先の敷地全体の面積がかなり広いです。建築施設の部分や、地形の起伏を活かした自然科学ゾーンを現在、拠点整備推進課が中心となって、建築住宅課、社会課、科学センターで実施設計に入っているところです。その屋外の施設につきましても、以前からそうしたドングリの森といいますか、授業等で使えるような森として整備をして欲しいという御要望がございましたので、クヌギを中心に植樹をしていく計画になっております。</li> </ul>
<p>村尾委員 廣田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よろしくをお願いします。</li> <li>・e ラーニング関係で、教育センターから不登校児童の各教室への通室数が発表されました。中央教室が 14 人、西教室 7 人、南が 3 人、それからアウトリーチで、このアウトリーチは中央教室に関するアウトリーチですよ。</li> </ul>
<p>青少年課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。実はこのアウトリーチの数も、今年度からは支援教室に通室している生徒へのアウトリーチなのですが、昨年度までは通室している生徒ではなくて、学校からの要望で行っておりました。いきなり今年度から切るというわけにはいきませんので、継続の生徒が 4 人ほどいらっしゃいます。</li> </ul>
<p>廣田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりました。新型コロナウイルス感染症と学校現場ですね、安全に気を付けながら、先生たちはぎりぎりの中で教育活動をしていると思います。コロナであったり不安定な社会情勢であったり、その中でやはり一番私たち教育者として心配するのは、小・中学生の子供たちが</li> </ul>

生涯学習課長	<p>家に閉じこもるのではなく、学校に行けなければ今のような支援教室に行くであるとか、あるいは何か外に出ることがとても必要だと思います。家の中に籠もってゲームをすとか、eラーニングの学習もですけど、もう少し外に出て人と関わるということをいかにしたら良いだろうかということで、アウトリーチの制度もあると思うのですが、そこで生涯学習課の「とどける」家庭教育支援事業——これはまた福祉のことで、家庭の自立や支援で狙いは少し違うのですが、子供を共有の核として、この「とどける」家庭教育支援員と学校で、外に出れない子供たちの支援を、学力と生活支援で、何か共有してやれたら良いかなと思うのですが、何かその辺のお考えはございますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先ほど関係機関とも連携していけたらと申し上げましたが、先日も青少年課とこども支援課を含めた連携会議を実施しまして、それぞれの事業の内容の把握と協力できる体制の構築についてちょうど話し合ったところです。そういった会議を年に2回持ちたいと考えております。</li> </ul>
廣田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>そうですね、良いことだと思います。あらゆる角度からとにかく子供たちを家の中に閉じこもるのではなく、外へ出て人と関わるということがとても大事なことだと思いますので、よろしくお願いします。</li> </ul>
渡邊委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日、小・中学校が終業式で夏休みに入るのですが、生徒たちのタブレットの持ち帰りというのはどうなっていますか。</li> </ul>
学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットの持ち帰りについては各学校にお任せしております。</li> </ul>
渡邊委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>分かりました。廣田委員が言われたように、夏休みで家にいる時間が増える中、今から紙媒体の勉強もあるでしょうけど、これからタブレットでの試験も始まっていくでしょうから、個人のレベルに合った勉強ができるソフトがタブレットの中にあるようなので、生徒たちもしっかり活用するようになるのではないかと期待するのですが。それでは各学校に委ねているんですね。</li> </ul>
教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>先日校長との面談がありまして、そこでいろいろな取組を聞いたときに、学級閉鎖になったときにタブレットを活用した学級がどんどん増えていることと、持って帰られる予定であるという学校も増えております。研修がまだ不十分なところもありますから、夏休みにはそういったオンラインの研修も増やしながら、それが標準化できるような。また、どういった課題があるかというのも使ってみなければ分かりませんから、課題があるのが怖いから使わせないというのではなく、どう対応していくかというのを考えて対応していただこうと思います。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットの導入は間に合ったのですか。</li> </ul>
教育次長	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、2年生は2学期からです。納品はされています。</li> </ul>
学校教育課主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>使えるように初期設定をしています。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体の関係でなかなか入手が難しいということもありましたが、一</li> </ul>

<p>教育次長</p>	<p>応契約業者はなんとか頑張るという話でしたが。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もう納品はされているので、初期設定などの作業をして2学期から学校で使える状況にします。</li> </ul>
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心配なのが、灘小学校の屋内運動場の改築について、古くなってる講堂を崩すわけですが、グラウンドをかなり潰すようになりますが、今、囲いなどはしてありますか。</li> </ul>
<p>教育政策課施設班長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はまだ実施設計を行っており、工事着手につきましては次年度、令和5年度からになります。</li> </ul>
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事に制限がかかってしまいますね。</li> </ul>
<p>教育政策課施設班長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事エリアと児童の学校活動がありますので、安全の確保を行いながら工事エリアの確保も同時に行っていくところです。その辺はしっかり両立できるように考えています。</li> </ul>
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内で休校や廃校になっている学校はどれぐらいありますか。</li> </ul>
<p>教育政策課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数はすぐ出てきませんが、基本的には休校をして5年を目途に廃校にします。</li> </ul>
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要は、コロナ禍にあって都市部から企業が地方にサテライトオフィスを探しに来ていますが、学校というのは道路に面していたり、敷地も十分あるというように立地がいいので、非常に目がつくところで、行政としてもある程度、民間の中で地元が保留にするところがあるかもしれないですが、調整が付けばそういった新たな企業誘致の拠点にもなり得るので、しっかり地元との調整もあるかもしれないですが、場所によっては再活用・再利用してもらおうというように、学校施設の休廃校の手続きを早めに、情報共有を教育委員会と商工振興課や政策企画課などとしてしっかり連携しながら——新たな関係人口を引っ張って来たらいいと思ったりもしますので。学校は結構あるでしょう。</li> </ul>
<p>教育次長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全く活用されていない学校はありません。</li> </ul>
<p>教育政策課政策班長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の方が廃校の校舎を使っておられます。もし外部の者が利用しようと思うなら、地元の方との調整が必要になります。</li> </ul>
<p>教育次長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分も商工振興課にいた時代にあるにはあったのですが、セキュリティの関係で、建物を地元が一部使って、そこに企業が入るとなると会社側がセキュリティの確保が難しいというのが何件かありました。その辺も含めて対応していかなければならないと思います。</li> </ul>
<p>廣田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人式は1月にコロナで延期されて5月になりました。今年はコロナの関係もありまして朗読はできませんでしたが、市民憲章と岩国市歌を流してそれを聞くというので、とても良い企画だったと思うのですが、実は市歌を作られた池辺先生が春の叙勲で旭日中綬章を受章されて、市長からも豪華な花束をいただいて、池辺先生も大変喜んでおられました。NHK交響楽団の解説を30年間行われ、とても素晴らしい先生が受章されたということで、また岩国市歌も更に光るかな</li> </ul>

<p>学校教育課長</p>	<p>と思うのですが、この合併 10 周年を記念して作られて、今年で 7 年目ですかね。小・中学校においてはいろんな指導をして、また後で状況を聞きたいのですが、今はどのように浸透していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩国市歌については、各学校の校歌と同様に入学当初から音楽の授業の中で学習をして歌えるようにしております。学校によって状況は様々ではございますが、卒業式や入学式などで歌うという取組をしているかと思えます。</li> </ul>
<p>廣田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それが功を奏して、今度は「豊かな心をはぐくむ音楽教室」で広島交響楽団オーケストラの伴奏で、6 年生全員で岩国市歌を歌うのが大変広響の方も感動されていて、こんなに美しく歌うところはないということで、大変手厚いサービスをしていただいております。コロナが収束して成人式で歌えるようになったら、あと何年先の成人たちが堂々と歌えるんだろうかなと夢に描いています。そして一般市民にどのように浸透させたら良いのかなと。市役所ではチャイムを作ってもらったりお昼の防災無線で流したりしていますが、これを更に強力に進めていって、成人式で堂々と二十歳の子たちが歌うのを夢見ています。</li> </ul>
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食費の無償化継続で 5 億 7,000 万円ほどありますけど、物価高騰があったり、今見直しをしなければならぬだろうとうことで今予算の関係でやり取りをしまして、各市では、国の交付金等を活用して保護者負担を軽くしようとされていますが、岩国市では保護者には無償化で継続していますので保護者の負担は変わりません。ただ上げるとなると財政的には厳しいのですが、保護者には多分給食費が上がったという感覚はないと思います。しっかり栄養価が保てて食材も大量に予算化してあげないと現場が食材を買えないので、そこはしっかり予算的なものはフォローしていこうかなとは思っています。</li> </ul>
<p>村尾委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の教育委員会会議で、中学生の栄養価が全国レベルより低かったということで、中学校は一人当たり 25 円上げると言われましたが、これは物価高騰を加味したわけではなかったわけですよ。ですから、今のままでいくと、市長が言われたように予算的には追いつかなくなるということで、やはり物価高騰のことを考えると上げざるを得ないというような状況なんですか。</li> </ul>
<p>学校教育課主幹</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報道で言われていますけれども、物価は確実に上がっていますので、対応していきたいと考えております。</li> </ul>
<p>村尾委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当然今までは燃料費は市が負担して、いわゆる物価の購入だけが保護者負担だったでしょう。ですから燃料費を入れるとかなり給食費は増えてくるということになるではないかと思うのですが。</li> </ul>
<p>教育次長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料費は入ってないです。</li> </ul>
<p>村尾委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入ってなかったですか。</li> </ul>
<p>教育次長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば米を運搬するのにガソリンや軽油を使っているの、輸送費が</li> </ul>

<p>村尾委員 教育次長</p> <p>市長 村尾委員 廣田委員</p> <p>村尾委員 市長</p>	<p>上がると米の値段が上がります。なので、あらゆる食材の値段が上がっています。ただ物によって上がり幅がありまして、まだ金額ははっきり分かりませんが、上がるという予告を受けているものはかなりあります。そういったのを含めて今回予算的な対応をしなければならないということで、一応そのような方向で考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算的な対応というのは、メニューを変えるとかですか。</li> <li>・いいえ。市長が言われたように、給食費を上げていく方向で考えています。</li> <li>・保護者への負担を求めるわけではありません。</li> <li>・ありがたいですよ、本当に。</li> <li>・お知らせしないとイケませんね、このようなことをしているというのを。</li> <li>・アピールしなければいけないですね。</li> <li>・本日の議題、令和4年度の教育関係施策の主な取組につきまして、教育長、教育委員の皆様から大変貴重な意見をいただき、ありがとうございました。今後とも、相互に連携して、教育行政の更なる充実・発展に向け、事業を推進していきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。</li> <li>・それでは、これもちまして、令和4年度第1回岩国市総合教育会議を閉会します。</li> </ul>
---	---